

インド金融政策（2024年8月）

平年を上回るモンスーン降雨量もあり、年内の利下げ開始を予想

2024年8月9日

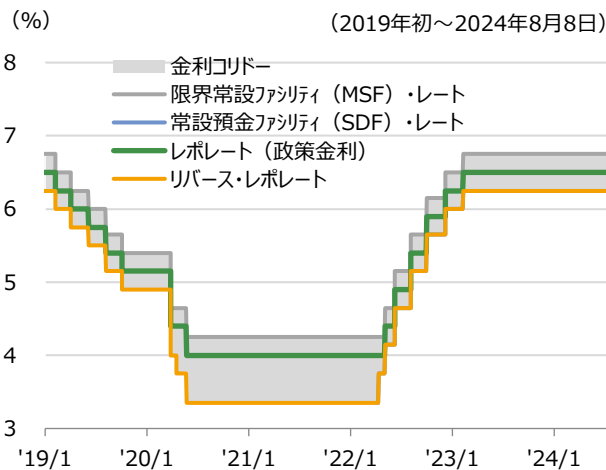
物価安定をより確実にするために利下げは急がず、政策金利を据え置き

インド準備銀行（中央銀行）は8月8日（現地）終了の金融政策決定会合で、政策金利を6.5%に据え置きました【図1】。市場参加者は、中銀が利下げのための環境作りとして、「金融緩和の解除に引き続き焦点をあてる」との文言を声明文から削除するかなどに注目しました。しかし、好景気で物価安定に注力する余裕があり、中銀は前回会合の政策スタンスを踏襲し、利下げを急がない姿勢を示しました。0.25%ptの利下げを支持する金融政策委員会メンバーも、6人のうち2人と、前回から変わらずでした。

物価見通しに関して、中銀は7-9月期を前年同期比+3.8%から+4.4%へ上方修正し、政策金利の据え置きを正当化しました【図2】。足元の食品価格の落ち着きが想定ほど進んでいないことや携帯料金の見直し等による物価上昇リスクを挙げました。一方で、雨期（6~9月）の降雨量が平年を上回り、4%台での物価安定に寄与し、利下げ環境が整うことを示唆しました。年内に利下げ開始の可能性があると考えます。

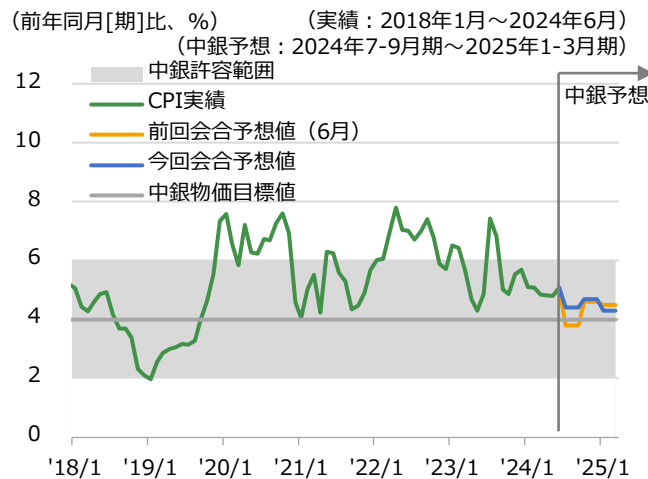
景気状況に関して、中銀は前年同期比の実質GDP成長率が+7%台前半の高水準で安定的に推移するとの見方を示しました。具体的には、政府支出がインフラ投資などを後押しするほか、雨期降雨量が農村部の消費を支援し、製造業やサービス業の回復で都市部の消費も回復するなど、引き続き投資と消費の両輪による経済成長が続くと見込まれています。当面は、米国の利下げ開始のタイミングも睨みながら、インドでは年内の利下げ開始が予想されており、引き続き株式市場の好材料であると言えます。

図1 主要政策金利および金利コリドー



※金利コリドーとは、銀行間オーバーナイト金利の誘導目標レンジ。中銀は22年4月8日にコリドーの下限を変更。(出所) ブルームバーグ

図2 消費者物価指数



(出所) ブルームバーグ、インド準備銀行

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。